

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	3 ボランティア活動・教育（研究科）《全学的な視点》	
中項目		
小項目	3.0.1 ボランティア活動・教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。	
要素	(KG1) 方針、実施内容	
	(KG2) ボランティア活動実践への対応	
	(KG3) ボランティア活動に関する課題の把握	
	(KG4) ボランティア教育の現状	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. ミッションステートメントを軸としてボランティア理解を整理し、本学独自の活動のあり方の理念的根拠を明確化する。	→ ミッションステートメントにもとづく学院ボランティア理解の提示	C	B			
2. これまで展開されてきた活動の系譜を整理するとともに、ミッションステートメントを受けてどのように継承・発展させるか、その展望を明示する。	→学院ボランティア活動の系譜理解と、その継承・発展のためのマテリアル作成、配布状況	D	C			
3. ボランティア活動を学生などによる自主的活動という位置づけから、積極的に大学の正課教育活動としてとらえ直し、Service Learningとしての内実を求める。	→正課カリキュラム上でのボランティア関連科目の設置、受講者数	D	C			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目3.0.1	3.0.1 ボランティア活動・教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。 (説明)本学のボランティア活動が、1) 教職員と学生の協力によるもの(ヒューマンサービスセンター:略称HSC)、2) 国連に関するボランティア活動、3) 学生団体を主体とする活動(上ヶ原ハビタット、エコハビタット関西学院、宗教総部献血実行委員会など)、4) 大学の業務に学生が支援者として参画する活動(ノートテイクなどの障がい学生支援)、から構成される現状に大きな変更はない。HSCによる学童交流活動に昨年並みの1497名(のべ数)が参加している。国連に関するボランティア活動は、対象が情報通信技術の支援から拡大されて、教育・環境・衛生の分野にわたる国連学生ボランティアに改組され、本年度は春秋各3名がガーナ、ネパール、マラウイ等に派遣されている。また、障がい者修学支援のために学生スタッフが募集され、講習・訓練をうけて支援者として登録されている(現在170名)。これらの業務は教務部キャンパス自立支援課が担っているが、2011年4月より学生部学生支援センターと統合されて総合支援センターとなり、より充実した支援活動へむけた体制が整えられた。 2011年3月の東日本大震災の対応において学長から大学構成員にむけて声明が発表され、建学の精神及びスクールモットー「マスターフォアサービス」にもとづいて、被災者支援への呼びかけがおこなわれた。その後、被災者支援の学生のボランティア活動をささえるために、教務上の特例措置・ボランティア活動のコーディネータの配置などの施策が検討されている。また活動の実際は、教職員と学生とで運営される「東日本大震災救援・支援ボランティアネットワーク」で、情報交換・協力がなされている。本学には、建学の精神・ミッションにそってなされたボランティア活動の伝統がある。これについてはミッション展開推進委員会が準備する建学の精神についての小冊子で簡潔に紹介される企画で準備がすすめられている。いっぽう、ボランティア活動・教育を組織的におこなう体制は昨年度以上の整備はすすめられていない。
その他	

《評価指標データ》

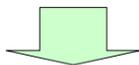
在学生のうち、なんらかのボランティア活動を経験したことがあると回答した者の比率
 在学生のうち、今後、ボランティア活動に参加したいと思う者の比率
 主にボランティアを目的とする学生団体(点訳作業など大学主導のものも含む)
 ヒューマンサービスセンターのボランティア照会件数
 ボランティア関連科目の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目3.0.1	
	その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目3.0.1	
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目3.0.1	
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目3.0.1	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○関西学院大学の建学の精神やミッションにそった多彩なボランティア活動が展開されており、高く評価できます。大学院でその活動があるかどうか分かりませんが、東日本大震災への支援活動があれば、その成果も今回あるいは来年度の自己評価などで紹介されることを期待します。また、組織的にも「総合支援センター」の充実が進められており体制整備も進んでいることは評価できます。さらに積極的に「コーディネーターの配置」など体制整備がすすめられることが望まれます。

【学内委員】

○ボランティア活動・教育の現状と課題について、具体的にわかりやすくまとめられています。
 ○東日本大震災に対応したボランティア活動・教育が適切に行われているようですが、注目される場所なので、いまだ少し、詳しく現状説明をしてはどうでしょうか。
 ○ボランティア活動・教育が着実に進められていることがうかがえます。
 ○関西学院大学の独自項目である本項目の適切な実施が期待されます。
 ○総合支援センターが設置されました。その活動に期待します。
 ○昨年度、今後の課題としてあげられたり、目標とされている「大学全体としての活動の整理」「大学としての理解の明示」「支援体制の確立」「正課教育への導入」などの実現に向けご努力ください。なお、これらは改善すべき事項に記す必要はありませんか。
 ○大学の記述と同じですが、大学院として記載する内容は無いのでしょうか。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・2008年度の自己点検・評価においても触れられていますが、「ボランティア活動の実態を把握するための基礎データ」の作成、実態調査など、大学として把握することが求められます。2008年度の自己点検・評価を参照されることを求めます。
 ・現状説明の中で、課題とされている「ボランティア活動を支援する体制」「サービスラーニングへの対応」について、改善方策が記述されていません。少なくとも検討の方策について説明することが期待されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

追加記述なし。

★	
---	--